

JALスカラシップがつなぐ地球人の輪



8

4年ぶりに迎え入れた
海外スカラシップ生たち

2023年6月22日～7月13日、『JALスカラシッププログラム』が開催されました。この取り組みは、アジア・オセアニアの大学・大学院生を日本へ招待し、日本人学生との交流・研修や文化体験を通じて日本への理解や国境を越えた相互の理解を促進し、「地球人」を育成することを目的としています。1975年に日本航空によって開始され、現在はJAL財団が運営を引き継ぎ、2023年で52回目を迎えました。

今回のテーマは「SDGs—持続可能な未来へ—未来に続く豊かさのために、環境について考えよう」。北京、上海、香港、台北、台中、マニラ、ハノイ、ホーチミン、韓国、タイ、カンボジア、ミャンマー、シンガポール、ジャカルタ、インド、グアムから選ばれた海外の学生（海外スカラシップ生）19名と、日本人学生（東京スカラシップ生）8名が参加、オンラインと対面を組み合わせた全22日間を、共に学びました。

初日のオンライン顔合わせでは、「2030年にあなたと日本の関係はどうなっていると思うか、どうなっていたいか？」「それを達成するためには本研修をどう活かすか？」という目標設定を各自が発表。初日を振り返り自分の気持ちを漢字一字で表現する「一筆入魂」では、さまざまなバックグラウンドを持つ学生たちが、自筆の漢字を笑顔で掲げる様子が印象的でした。

環境問題解決に向けて
アクションプラン設定

日程後半は、海外スカラ

今回のテーマに該当する目標



1.修了証書授与式には、民族衣装で参加したスカラシップ生の姿も。2.フェアウェルパーティーにて。東京スカラシップ生が一人一人メッセージを書いた色紙が、海外スカラシップ生全員に渡された。3.『JALスカイミュージアム』をみんなで視察。4.福岡・さつき松原海岸でのビーチクリーン作業。プラスチックごみや放棄された漁網などを回収。5.プログラム初日の「一筆入魂」。6.樹木・環境ネットワーク協会による里山整備体験では、下草刈りと伐木を実施。発生材を使った竹細工も体験した。7.宗像大社を参拝。8.さまざまな地域からバックグラウンドの異なるメンバーが集まり、共に学ぶ22日間となった。



生全員を迎える対面プログラム。福岡では宗像大社での参拝体験、さつき松原海岸でのビーチクリーン作業、タカミヤ環境ミュージアムやシャボン玉石けん工場の視察など、主に海洋保全に関して学びました。東京では日本フードエコロジーセンターや武蔵野グリーンセンターの視察を通してごみ問題や廃棄物処理の現状を知り、三鷹の森ジブリ美術館訪問や里山整備体験など、自然と共存してきた日本の暮らしに触れる時間も設けられました。また、浅草や渋谷で体験できるSDGsの取り組みを東京スカラシップ生が事前に調べ、海外スカラシップ生を案内しながらフィールドワークを実施しました。

最終日にはグループごとのアクションプランと、一人一人の「わたしの2030年目標」を発表し、漢字一字で示した目標や自分の夢、全行程を通して得られた学びについて、27名のスカラシップ生全員がスピーチを披露。SDGsについての研修だけではなく、

日本語で語り合い、国や地域を越えて友情を深め、新しい時代のネットワークを築くプログラムとなりました。4年ぶりの対面開催を終えて、事務局を務めたJAL財団の比嘉君枝も「会って話すからこそわかり合えることがある。対面の力やリアルな触れ合いの重要性を感じました」と振り返ります。

JAL財団とJALグループは、次世代を担う若者たちの成長を今後も後押ししてまいります。

2024年
JALスカラシップ
プログラム参加
日本人学生・大学院生
を募集します。

- 日程：①2024年6月27日(木)～7月3日(水) オンラインプログラム ②2024年7月10日(水)～17日(水) 訪日プログラム
- 募集人数：10名(予定)
- 応募締切：2024年4月5日(金)17時まで
- 応募先：2024年の参加募集要項や過去のJALスカラシッププログラムの活動詳細については、左記Webサイトをご覧ください。

※①および②の両方のプログラムにご参加いただける方を歓迎します。応募が多数の場合は、書類・面接等により選考させていただきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的な社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいます。